

父が求めておられる礼拝

ヨハネ福音書4:19-26
【新改訳2017】

- 4:19 彼女は言った。「主よ。あなたは預言者だとお見受けします。
- 4:20 私たちの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」
- 4:21 イエスは彼女に言われた。「女の人よ、わたしを信じなさい。この山でもなく、エルサレムでもないところで、あなたがたが父を礼拝する時が来ます。
- 4:22 救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。
- 4:23 しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです。
- 4:24 神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」
- 4:25 女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう。」
- 4:26 イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

(4:26)ギリシャ語・英語／行間訳

λέγει αὐτῇ ὁ Ἰησοῦς, Ἐγὼ εἰμι, ὁ λαλῶν σοι.
said to her {the} Jesus, I am the one speaking to you.
(わたしは在る)

【NKJV】 John 4:26 Jesus said to her, "I who speak to you am He."

【祈りながら考えよう】

- (1) 旧約時代の礼拝と新約時代の礼拝はどう違いますか。
- (2) 「御霊と真理によって父を礼拝する」とは具体的にどういうことですか。
- (3) 26節「あなたと話しているこのわたしがそれです」はギリシャ語原文ではどうなりますか。

【解 説】

(1) 旧約時代の礼拝する場所

《彼女は言った。「主よ。あなたは預言者だとお見受けします。私たちの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」(19-20節)

サマリアの女は、イエスが語ったことによって自分の過去が暴露された時、自分に話しかけている人が「ただ者」ではないことに気が付いた。また「自分の罪を自覚した」。それ以上追求されるのを恐れてか、彼女は、礼拝の場所として妥当なのはどこか、という問題を持ち出して、話題を変えようとした。

「私たちの先祖はこの山で礼拝しました」と彼女が言った時、彼女は近くにそびえるゲリジム山を指していた。それから、彼女は、ユダヤ人は《エルサレム》こそが《礼拝すべき場所》であると主張していますね、と主に確認しようとした。

(2) 旧約時代の礼拝から新約時代の礼拝へ変わる

主イエスは、それに対してこう教えられた。

《「女の人よ、わたしを信じなさい。この山でもなく、エルサレムでもないところで、あなたがたが父を礼拝する時が来ます。救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています」》(21-22節)

主イエスは彼女の解説を無視せず、むしろ、より深い霊的真理を伝えるために、それをを用いられた。主が彼女に言われたのは、ゲリジム山も《エルサレム》も《礼拝》の場所ではなくなる時が来る、ということであった。

旧約聖書において、エルサレムは主への礼拝がささげられるべき町であると神に定められていた(申命記12:5)。

エルサレムの神殿は神の御住まいであり、ユダヤ人たちはいけにえとささげ物を携えてエルサレムに詣でていた。主は、このことを一層詳しく、これに続く節で説明された。

《あなたがたは知らないで礼拝しています》と言われたのは、主がサマリアの礼拝様式をとがめたということである。主イエスはこの女に、サマリア人の礼拝は神から認められたものではなく、是認もされていない、と告げられた。それは人の考案したものであり、神のみことばの裏づけのないまま行われていた。

ユダヤ人の礼拝の場合はそうではなかった。神はユダヤ民族をご自分の地上の民として選び分かっておられた。神はご自身を礼拝する方法をすでに完全に教示しておられた。

《救いはユダヤ人から出る》と言われた主は、ユダヤ民族が使者として神に選ばれたこと、そして、その彼らに対して聖書が与えられたことを教えられた。また、メシアが来るのもユダヤ国家を通してであった。メシアはユダヤ人の母親から生まれたのである。

次にイエスが女に教えられたのは、ご自分が来られたので、「神を礼拝する特定の場所はもはや地上にはない」ということであった。神の御子イエス・キリストの来臨により、今やいっさいの場所的制限が取り除かれ、あらゆる場所において神を礼拝することができるようになった。

旧約時代の礼拝は、実は主イエス・キリストを指し示しているものであった。本体であるキリストを指し示して影のようなものであった。動物の犠牲は、キリストの十字架の上の贖いを示していた。

(3) 父が求めておられる礼拝

《しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです。

神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」(23-24節)

《まことの礼拝者たち》とは、神によって新しく生まれた者たちのことである。《神は霊ですから》という表現は、旧約聖書にその根拠を持つ表現で、「神が活動し、新しいいのちの息を吹き込む方である」という意味である。イエスを信じる者は、彼の内に働く御霊に導かれて、神を礼拝する。

では、「御霊と真理によって」礼拝するとは、どういう礼拝のことか。

その礼拝は、御言葉に基づき、御霊の導きによってなされる。具体的には、地上の誰かを祭司として仲立ちとするのではなく、唯一の仲保者であり大祭司であるお方(イエス・キリスト)を通してささげられる礼拝である。

また、「真理によって」の真理とは、嘘に対する真理ではなく、「影に対する本体」という意味で使われているから、「真理によって」する礼拝とは、旧約時代に行われていた儀式や動物の犠牲による礼拝が指し示していた礼拝のことである。

《キリストは、すでに実現したすばらしい事柄の大祭司として来られ、人の手で造った物でない、すなわち、この被造世界の物でない、もっと偉大な、もっと完全な幕屋を通り、また、雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました》(ヘブル9:11-12)

(4) あなたと話しているのは主(ヤハウェ)である

《女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。

その方が来られるとき、一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう。」

イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」》(25-26節)

主の話に耳を傾けているうちに、サマリアの女は、来たるべき《メシア》のことを思わずにはいられなくなった。「メシアが来られる時、一切のことを私たちに知らせてくださる」はずです、という確信を彼女は口にしました。そう述べた彼女は、キリストの来臨の偉大な目的の1つをきちんと理解していたことを示している。

《キリストと呼ばれるメシア》という表現で、《メシア》というのは「油注がれた者」という意味のヘブライ語であり、《キリスト》というのはそれに対応するギリシャ語である。

イエスが彼女に言われたことを「直訳」すると、「あなたと話しているこのわたしは、在る者である」となる。《それ》という語は原典にはない。確かにあったほうが文の意味は明瞭になるが、主イエスが実際に使われたことばには深い意味が潜んでいる。

「わたしは在る」という語が使われた主は、出エジプト3章14節で神がご自身に当てはめられた御名の1つを用いられた。主は「わたしは在る」、言い換えれば、「あなたと話しているこのわたしは主(ヤハウェ)である」と言われたのである。彼女に話しかけているのは彼女が捜し求めていたメシアであり、そのメシアは同時に神ご自身である、という驚くべき真理を、主は彼女に明らかにされた(参照ヨハネ8:58/NLT STUDY BIBLE P1776)。

